



新元号「令和」

今月一日。五月の御代替わりに当たった新しき元号が事前発表されました。新しき元号は「令和(れいわ)」と定められました。

出典は『万葉集』巻五より天平二年(七三〇)正月十三日に大宰府の大伴旅人郎での宴で詠まれた梅花三十二首の「初春令月 氣淑風和 梅披鏡前之粉 蘭薰珮後之香(時は初春の良き月、空気が美しく風も和やかで、梅は鏡前で装うように白く咲き蘭は身に帯びた香りのように香っている)より採られたとの事で、**史上初めて漢籍ではなく、国書(日本の古典)より文字が採用されました。**

元号とは、これまで天皇陛下下の踐祚(天皇陛下となられる事。即位礼は内外に宣明する儀式や当今陛下下の改元の勅があつて初めて発表される事が慣わしでありましたが、現代社会は昭和から平成の時代と違い、インターネットなどを通じて世界各国と密接に関係している事から、国民生活に影響を及ぼさないよう、**五月一日の正式な踐祚の前に事前公表される事になりました。**これは元号が定められた奈良時代以降初めての事です。

元号の発祥は、**前漢の武帝の時代、紀元前一一五年頃に、武帝自身の御代をさかのぼって、武帝の即位元年を建元と呼ぶようになった事**が元号のはじまりです。この武帝の時代に、中国は実質的に国家としての範囲を確定させ、今も中国の人々が自分たちを漢民族と呼び習わすように、民族としての自己意識が芽生えた時期であったと考えられます。

この東アジアにおいて、**元号はまさに国の意識の表れ**といつても過言ではなく、今回、この新しき元号「令和」が、その字の如く、**春の美しく清らかな風月 梅香蘭薫の如く、和やかに麗しき御代となる事を祈念してやみません。**

※新元号発表を待つて社報発行の為、発行遅延ご容赦下さい

茶屋町あるこ 閑業

茶屋町の当宮御旅社の向かい側。以前は阪急かっぱ横丁古書の街のあった場所ですが、昨年からは歩道も含めての大きな改装が行われ、先月二十八日に「茶屋町あるこ」という名で飲食店街等が新装開業されました。御旅社の門前町ともいえ、お参りの際に是非お訪ね下さい。

御即位のはなし / 八十島祭

平成の御代から新しき御代への御代替わりを控え、平成三十年五月から掲載してまいりました「御即位のはなし」も今回で最後となります。

八十島祭(やそじまさい)

現代では既に廃れてしまいましたが、鎌倉時代までは、**天皇陛下の御即位の翌年に、勅使が難波津(現在の北区周辺)に赴いて執り行われた神事**です。

その神事の内容は『延喜式』『江家次第』に見られ、それによれば、**新しい天皇陛下の乳母ら祭使一行が難波津に赴き、新天皇陛下の御衣の入った箱を、琴の音に合わせて揺り動かしたのち、最後には祭物を海に投じる**という儀式であったと記録されています。

祭の目的は諸説ありますが、**難波津は淀川などの運ぶ土砂によって、次第に州が広がっていき、国土が広がっていき、つまりは国土が生み出されていく**という神秘的なチカラを新しい天皇陛下にも付着(招魂)させて、**新天皇陛下にも国土を豊かにしていくチカラを授かります**ようにという、願いを込めたものであったのではないかと考えられています。

記録上としては、**嘉祥三年(八五〇年)九月に執り行われたのが最初**ですが、奈良時代の文武天皇の御代あたりから、即位翌年に難波行幸の記録が見える事から、**既に古代から執り行われていた神事**であり、古くは**天皇御自ら執り行うほど大事な神事**であった可能性が高いといわれています。一説には当宮御祭神の嵯峨天皇の行幸もあったのではないかと考えられています。

その祭場となったのは**難波津を中心とした北区周辺**で、この梅田をはじめ、淀川下流域、平安時代末期になると住吉大社周辺でも行われました。

この梅田は古代、**天皇陛下の御即位において、大変重要な場所**であったという事を、この御代替わりの年ぜひお心にお留め置き頂ければ幸いです。

今月の暦

【祭礼】

神武祭(三日)：神武天皇崩御の日 神事のみ
明祭(廿日)：道真公の冤罪が晴れた日 神事のみ

【節気】

清明(五日)：気候明るく清々しい頃
穀雨(廿日)：田畑の準備が整い春雨降る頃

【雑節】

春の土用(四月十七日～五月五日) 土掘りは遠慮

【大安】

四月三日、七日、十三日、十九日、廿五日

【祝日】

昭和の日(廿九日)、
退位礼正殿の儀に伴う祝日(三十日)
※四月廿七日(土)より五月六日まで実質奉祝連休



網敷天神社 SNS、地図サイト

編著 網敷天神社 禰宜(御旅社 神主) 白江 秀 知

禰宜(御旅社 神主)

